

NGO との鳥類の保全施策に関する共同検討（第2回）

日時：2024年2月1日（木）15時～17時

会場：ウェブ会議システムにおけるオンライン開催

- 出席者
- 公益財団法人日本自然保護協会（NACS-J）
（順不同） 公益財団法人自然保護基金ジャパン（WWF ジャパン）
公益財団法人日本野鳥の会
公益社団法人大阪自然環境保全協会（ネイチャーおおさか）
日本野鳥の会大阪支部
IUCN（国際自然保護連合）日本委員会
公益社団法人2025年日本国際博覧会協会 持続可能性部、整備調整部、
催事局催事部、企画局企画部

■議事：

1 出席者の確認

2 検討事項

- ① 事後調査計画書に基づく鳥類の事後調査結果について
- ② 鳥類の生息環境への配慮について
- ③ 催事等の検討案について

以上3点について事務局が説明し、出席者から以下の発言があった。

- ・水辺を利用する鳥類の保全、配慮については、前回説明があった内容よりも、後退したのではないか。アセスより下がってマイナスになっているのではないか。
- ・西側に水辺を利用する鳥類への配慮場所を確保することだが、手を入れていい場所といけない場所とがあるので、十分に配慮して、事前に私たちの意見と調整しながらやってほしい。できればヨシ原を再現して中に湿地があるような、鳥と底生生物が生きていけるような場所にしてほしい。
- ・つながりの海の東側のAエリアとBエリアの境目はどうなるのか。連続性（エコトーン）について検討してほしい。
- ・Cエリアの水深を(再び)深くすると、セイタカシギをはじめとするシギ・チドリには適さなくなる。Cエリアの排水をコントロールして水位調整をできないか。
- ・つながりの海に入る海水の水質はどうか。海水と一緒に生き物は入ってくるか。
- ・海水を採取する際は、夏場の貧酸素水塊を避けるため、中層より上から取るように計画してほしい。
- ・イベントや花火の頻度などは事前に分かるか。
- ・自然再生構想検討会の設置についての意見に対して、大阪市から回答はあったか。
- ・会期後の跡地利用については大阪市が検討すると聞いているが、情報はあるか。
- ・夢洲の生息環境の保全回復についての検討を契機として、大阪湾全体の自然再生の検討、アクションを進めていくことにつなげることが、博覧会の意義を高めるためにも重要。博覧会協会も、その関係者の1人として積極的に考えていくべき。

- ・博覧会協会の事業について指標を設けて評価するという検討が動いている中で、自然環境、鳥類に対する事業の影響について評価する指標が必要。
- ・次回の会議では、NGO だけでなくメディアや企業にも呼びかけを検討してほしい。
- ・夢洲は地盤改良によって、かなり環境が壊されてしまい、我々はこの地盤改良工事が大きな問題と住民監査請求で大阪市に言ってきたが、大阪市監査委員は博覧会協会が保全対策を実施するので問題ないという見解であった。しかし、本日の説明では保全対策にはほど遠い。また、大阪市の開発計画では、万博後にはつながりの海が全く壊されてしまうような方向性だと思う。であれば、万博のアセスメントで、その場だけ繕えば、その後は開発してもいいという、大阪市の姿勢が、すごくおかしなものになっていると思う。これを本来の万博の理念の中で、論議してもらわないといけない。博覧会協会の説明の内容では、A、B、C エリア等への改善提案や意見について、A エリアの一画と会場外西側の一部で対応するとの、ほぼゼロ回答であるが、この対策をしても、開発することを前提として大阪市に返すので、この共同検討の場が有意義なのかすごく疑問である。こうした言及があったことを我々の立場として議事録に明確に書いておいてほしい。

これに対して事務局からは以下のコメントをした。

- ・つながりの海内で浅場を設けるべく検討を進めてきたが、結果としてつながりの海の水深が約 1 から 2 メートルとなり、水位調整も余水吐き（手動堰板）による調整となるため、浅場を確保することが難しくなった。そこで水深の浅い水際部を A 区域の一角及び会場外西側の水溜まり環境で確保することを検討している。会場外については土地管理者である大阪市と協議している。
- ・海水については、ポンプで引き上げる際に約 5cm 角のメッシュフィルターを通し、熱交換器で海水熱を冷却用に利用した後、つながりの海へ放出する。
- ・A 区域の一角については、雨水を一時的に溜める場所を水際部として活用できないか検討している。
- ・また、候補地として検討するにあたり、会場外西側に飛来する鳥類を評価書などの調査結果等より確認しており、整理できた情報は改めて報告する。
- ・イベントや花火については検討中で、決まったものはないが、引き続き丁寧に検討を進めていく。
- ・自然再生構想検討会の設置についてのご意見は、昨年 11 月に大阪市に共有したが、ビジョン、フィードバックには至っていない。
- ・博覧会会場の跡地を含む夢洲 2 期工事について、2025 年 3 月までにマスタープランを策定し、利用の方針が決まってくると、市から聞いている。
- ・博覧会協会は時限的な組織であり、主体、柱となつての検討は難しいが、万博を契機に、NGO、企業、行政が連携していくところについて、働きかけていきたい。

以上